

「都立高校教育支援コーディネーター」

東京都教育委員会は、都立高校生の「奉仕体験」や「キャリア教育」などの社会体験活動を活性化させることを目的に、平成19年度から都立高校「教育支援コーディネーター」事業を始めました。今号から4回にわたり、教育支援コーディネーターの活動を紹介していきます。

第1回目は、都立工芸高校で教育支援コーディネーターとして活躍される財団法人「日本環境協会」事業部アドバイザーで、「NPOこども環境活動支援協会」事務局長も務めている小川雅由おがわまさよしさんの取組を御紹介します。

魅力ある大人との 出会いを演出したい



○「奉仕」をコーディネートするに当たって、 心掛けられたことはどんなことですか。

まず始めに、工芸高校で「奉仕」を担当する先生方の「奉仕」の授業に対する思いや願いをお聞きしました。なぜなら、教育支援コーディネーターの役割で一番大切なのは、実際の授業を進められる先生方が思い描く授業像を理解し、それを実現させることであると考えからです。担当の神谷先生から「工芸高校のインテリア科では、実習で木材を扱うことが多い。しかし、生徒たちは加工された木材しか知らないのが現状で、『木』のことをもっと深く理解するとともに、地球的視野で環境問題を考えることのできる奉仕体験学習にしたい。」等の願いを聞き、私がこれまで取り組んできた子供たちの環境学習支援活動を通じて得た経験や専門家とのつながりを生かしたカリキュラムを提案させていただきました。

また、「奉仕」の時間は、みなさんが自分自身と対話できる人生で貴重なチャンスである、ということをお伝えたいと考えています。また、情報を一方的に受け取るだけでは、一つの見方しかできなくなってしまいます。いろいろなものを見方ができるようになることは、豊かな感性をはぐくむことにつながります。そのために、魅力ある大人との出会いを演出していこうと努力しています。魅力ある大人というのは、一つのことに打ち込んでいる仕事人です。最近では家庭においても、生活する地域の中にも、生徒達から見て職業が見えにくくなっています。だからこそ、多様な価値観をもつ大人達との出会いを大切にしていきたいのです。

○実際に授業を進める中で、 どのようなことを感じていますか。

生徒達自身が「奉仕」という学習をよく理解した上で、進めていくことが大事だと感じています。そのためには、事前学習の中でも最初のオリエンテーションが重要です。担当の先生方と連携し綿密な計画を立てる必要があります。また、生徒達との関係づくりも大切です。授業後にも声をかけ、反応を直接確かめながら次回につなげていくことができます。関係づくりは生徒達に限らず、先生方も同様です。先生方とよく話し合い共通理解をもって指導にあたることができたので、TT（ティームティーチング）になった時にも学習効果を上げることができました。

コーディネーターが企画・提案した授業計画案には、実際の奉仕体験活動「東京の森林体験」（奥多摩の森林の保全活動）・「ものづくり教室の企画・運営」（小学生対象に、インテリア科の廃材を活用）に向けて、様々な事前学習が盛り込まれています。地球的視野で環境問題を考えることができるように、専門家をゲストティーチャーに招き、様々な角度から「木材」をテーマにした授業が実施されます。

樹木医を招いた授業 ～木は生きている～

学校近くの公園に、都立工芸高校インテリア科の2年生が次々に集まってきました。今日の授業は、この公園を舞台にして行われます。授業は小川さんがゲストティーチャーの梶川さん、永石さん（樹木医）を紹介し、スムーズに進んでいきます。3グループに分かれ、資料を基に公園内の樹木の種類を予想していきます。資料には樹木の種類を見分けるときの観点（葉の形、木肌の様子、幹と枝のバランス）や写真（葉・木肌）が示され、9種類の樹木を公園内から探すのに役立つように工夫されています。生徒達は資料を片手に木を見上げ、近付き、葉を手にとって、樹木を探します。友達同士で意見を交換しながら探し回る姿からは、真剣さが伝わってきました。



集合した後、生徒達は梶川さんから公園内の樹木についての解説を聞きます。木の内部を調べるための機械や様々な実物（木片など）も見せてもらい、樹木に対する知識を深めることができました。

授業の最後に梶川さんが話された「普段みなさんにとってなじみがある木材ですが、もとは樹木であり、生き物であり、命であるということを忘れないでください。」という言葉が印象的でした。



工芸高校インテリア科

神谷画歩先生にお話を伺いました。

「奉仕」を実施するに当たって、環境保全活動や林業ボランティアを思いついたのですが、実際にはどう具体化していったらいいのか正直戸惑っていました。そんな折、教育庁生涯学習部から小川さんを紹介いただきました。幾度かの打合せをしていく中で、小川さんの提案する授業は、事前学習に自主的に取り組めるような仕掛けが随所にちりばめられていて、感心させられます。ものづくりに関わる職業人の方を授業に招くとともに、自らの環境活動についてお話いただく。生徒達のものをつくる意欲が段々社会と結びつくとともに、環境問題が自分たちにとって身近な問題へと意識が変化していくのが見て取れます。また、小川さんの、生徒からの意見を採り上げつつ状況を把握して体験活動を進めていくファシリテーター（促進者）としての役割は、とても参考になっています。